

第12回

～洋書絵本の専門店が贈る～

『のんびり洋書めぐり』



Ehon House

(株)岩崎書店 絵本の家事業部 仕入担当

望月真由



■ 絵本という媒体の柔軟性

イギリスで暮らしていたころ、子どもたちと一緒にジュディス・カーの絵本『The Tiger Who Came To Tea』(HarperCollins 1968)の展覧会に足を運びました。この絵本は、ある日突然、お腹を空かせたとらがティータイムにやってきて、家じゅうの食べ物を平らげてしまうお話です。子どもたちが大好きなお話で、「行ってみたい!」と即決で出かけたものですから、大した下調べもせずに会場に到着しました。原画が飾ってあるのかな?読み聞かせをしてくれるのかな?と想像しながら、案内に従って会場の入り口へ着くと、そこには人だかりと一枚の扉がありました。「皆さん揃いましたか。それでは、お話の世界へようこそ!」と開かれた扉の先は、全員入れるかどうかの小さな部屋。そこには主人公ソフィーのおうちの小さな舞台セットがあり、扉が閉まると同時に、一人の劇団員によるお話劇が始まったのです。

そこには老若男女問わず、様々な観客がいました。私はその全員が、丸ごと絵本の世界に入り込んだかのような一体感を感じ、鳥肌が立ちました。物語に描かれた情景が目の前に立体化し、それをたくさんの人たちと共有している、何とも幸せな時間が流れていました。

絵本という媒体は、如何様にも姿を変えることができる、無限の可能性を持つ媒体だと思います。絵本の楽しみ方は、読書という形だけでなく、絵本と音楽、絵本と演劇、絵本とダンス、絵本と料理・・・人間の持つ表現方法すべてに形を変えることができるのでは?と思うほど、たくさんの広がりを持ってい

ます。それを体現し、物語の魅力をより引き出し楽しんでいる人たちが世界にはたくさんいるように思います。

■ CDつき絵本の魅力

特に今回は、絵本と音楽、絵本と音に注目してみました。絵本には、様々な音付き絵本があります。ボタンを押して単語が聞ける、動物の鳴き声が聞こえる。QRコードをスキャンすれば、童謡を聴くことができる絵本や、読み聞かせを楽しめる絵本もあります。有名俳優による朗読や、壮大な効果音を加えた豪華な朗読などもあり、絵本の世界に音を組み合わせることで、より物語の世界を広げてくれます。

私のおすすめは、ドライブ中にCDつき絵本のCDをかけることです。車という限られた空間の中で聞く音は、音楽でもニュースでも、心地よく耳に入ったり、集中して聞くことができたりしませんか?海外生活をしていたころ、日々日本語から離れていく子どもたちを心配していたことがありました。会話の大半が英語になり、読む本も見るテレビ番組も英語になり、日本語が日常から消えていくのを肌で感じていました。そんな時、毎日の送り迎えの車中で、あまんきこ『車のいろは空のいろ 白いぼうし』(2000年 ※新装版 ポプラ社)の音読CDをかけることにしました。タクシーのお話でもあり、車内で聞くにはシチュエーションもばっちり!何気ない送り迎えの時間が、あっという間にミニシアターのような雰囲気になり、子どもたちはしんと聞き入るばかり。耳から入る言語情報だけで物語を想像する、感覚が研ぎ澄まされると



でも良い時間となりました。

■ 韓国Two Ponds社の試み

英語絵本と音を組み合わせ、さらなる魅力を引き出している出版社があります。韓国Two Ponds社は、英米の人気絵本に朗読やチャンツ、音楽を合わせたCDをセットで販売しており、弊社直営店でも根強い人気を誇るシリーズです。ホームページを見ると、試し読みができたり、読み聞かせのフル動画を見ることができたり、大変充実しています。さらに、商品によっては先生用ガイドやアクティビティシートに加え、「読み聞かせをしながら、子どもたちに英語でどう語りかけたらよいか?」の原稿案まで無料で提供する充実ぶり! 一体どんな出版社なのだろう・・・想い募ってTwo Ponds社へインタビューをしました。

【出版社へ聞きたいことをインタビュー!】

望月：いつ頃からこのようなCDつき絵本シリーズを始めたのでしょうか?

Two Ponds：私たちが絵本とCDをパックにした商品売り始めたのは、20年以上前になります。そのころはMOONJIN English Picture Bookというシリーズで売り出し、My Little Libraryとなったのち、現在のPICTORYシリーズとなりました。

望月：始めたきっかけを教えてください。

Two Ponds：私たちは、ネイティブスピーカーと同じ

方法で子どもたちが英語を体験できればと願い、絵本とオーディオをセットにして販売することにしました。世界で愛される絵本を読むことで、英語を学ぶ子どもたちは、その絵本に含まれる現地の文化や現地の言語に直接アクセスすることができます。同時に、英語を学ぶ子どもたちには、英語の読み方を文字だけではなく、オーディオから学ぶということが必要でした。PICTORYシリーズは、オーディオを聞きながら原書絵本を楽しめます。英語を学び始めたばかりの子どもたちでも楽しみながら練習できるよう、歌やチャンツ、子どもによる朗読、大人による朗読など様々なタイプのオーディオを揃えていきました。望月：韓国では、このシリーズは特にどういった層に人気がありますか?

Two Ponds：特にプリスクール(補記：未就学児を対象に英語で保育をおこなう施設)や私立小学校が経営する幼稚園に人気があります。

望月：先生方や保護者の方からはどんな声が届いていますか?

Two Ponds：PICTORYシリーズをより楽しんでいただくために私たちが用意している、先生用ガイド、アクティビティシートなどをご活用頂いているようです。また、それ以外のご要望があれば、先生方とご相談し、ご要望に沿った補足資料も作成し、ご提供しています。過去には、先生方に研修を行う事業も展開しておりました。現在は、保護者の方向けに類似オンライン

プログラムを展開し、商品とともに英語教育に関するサポート事業を行っています。

望月：そうなのですね。詳しいご回答をどうもありがとうございました!

インタビューを終えて、商品の背景にある出版社の方々の熱意を改めて実感しました。原書絵本にオーディオをつけて発売するということは、出版元との権利上の整備ひとつとっても、簡単なことではないはずです。そこには、「原書絵本+音こそ、英語を学ぶ子どもたちに手渡したいツールなんだ」という、20年以上ぶれない信念が伺えます。20年という歳月の中で出版元との信頼関係も構築され、他に類を見ないさらなるラインナップの充実へつながっているのだろうとも思いました。今後も目が離せない出版社です。

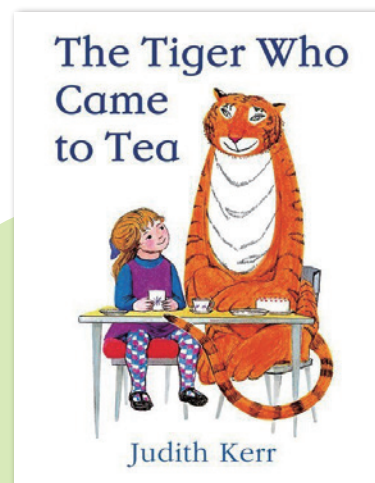
■ Two Ponds社のCDつき絵本『One to Ten and Back Again』を読んでみた&聞いてみた!

作者ニック・シャラットは、第66回青少年読書感想文全国コンクール小学校中学年の部課題図書『ねこと王さま』(2019年 徳間書店)でも有名なイギリスの人気絵本作家です。彼のユーモアに色付けされた英語とイラストは、どれも心躍るものばかり。その中でも『One to Ten and Back Again』(PRHUK 2004)は、英語を初めて学ぶ子どもたちと楽しみたい、イチオシの絵本です。NickとSueという子どもたちが、

身近なものを数え始めます。動きのあるイラストは、ジェスチャーを真似するのに最も適です。身近なものを数えていると思ったら、あっという間に山へ海へ。そうかと思えばおやつを食べたり、お絵かきしたり、くると変わる場面がまるでジェットコースターのよう。この絵本の一番の見どころは、10まで数えたあと、1まで戻る構成です。後ろ向きのジェットコースターで引き戻されるように、またまた楽しいページが続きます。さあ、結末はどうなるのかな?最後の1ページまでたっぷり楽しめる1冊です。

Two Ponds社のCDには、このお話をリズムカルな曲にのせた歌のほかに、大人が歌ったあとに子どもが追いかけて歌うチャント、笑い声や効果音の入った音読といった複数のオーディオが含まれています。絵本をめくりながらもよし、ドライブ中でもよし、幾通りも楽しめる優れもの。もちろん、教室といった大人数が集まる場面でも大活躍するオーディオです。

ウェブページでは、読み聞かせビデオが公開されており、英語の読み聞かせの練習に活用できます。先生の動物の鳴き声があますぎる! こういう合いの手を入れるといいんだ、このタイミングでページをめくるといいんだなど、英語絵本の読み聞かせにトライするときの、知トクスキルが満載! インタビューで感じたTwo Ponds社の方々の情熱を思い出し、動画を見ながら再び感服することになりました。皆様もぜひ、CDつき英語絵本の魅力に触れてみてください! 



『The Tiger Who Came To Tea』(HarperCollins 1968) イギリスではミュージカル、アニメーションなど様々な形で長年愛される人気絵本。



お話劇の会場に掛けられていた、主人公ソフィーのおうちの鍵。



『One To Ten and Back Again』(PRHUK 2004)



© Sue Heap and Nick Sharratt, 2004

